

別紙1

四街道市地域防災計画改訂
に関するワークショップ
第1回

2022年6月2日（木）

本日のプログラム

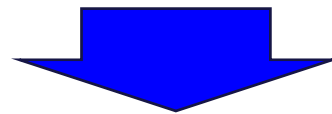
四街道市地域防災計画改訂
に関するワークショップ第1回

- | | |
|----------------|-------------|
| 1. 開会挨拶 | 18:30～18:35 |
| 2. 趣旨説明 | 18:35～18:40 |
| 3. ワークショップの進め方 | 18:40～18:50 |
| 4. グループワーク | 18:50～20:00 |
| 5. グループからの発表 | 20:00～20:15 |
| 6. まとめ・閉会挨拶 | 20:15～20:30 |

ワークショップの目的

『地域防災計画』の改訂に向けて、市民の皆さんが感じていることや思うことなどを意見交換し、計画づくりに反映します。

市民ワークショップの開催



市民意見をふまえた計画づくり

ワークショップのグラウンドルール

1. 一人ひとりの想いを大切にしましょう。
2. 互いを尊重し合い○○さんと呼び合いましょう。
3. 参加者全員で発言機会を提供し合い、より良い関係性をつくりましょう。
4. 互いの考えの違いや多様性から学び、新しい気づきを生み出しましょう。
5. 議論のなかで感じたことを大切にしましょう。
6. 意見などは記録として残すために、付箋に書いて貼り出しましょう。

本日のワークショップのテーマ

災害時における
「自助強化のポイント」
についてみんなで考えていただきます。



〈ポイント〉

- 災害があった時、自助として、まず何をすべきか。考えてみましょう。
- 考える際には、「私」にとっただけでなく、さまざまな人の立場から考えてみましょう。

グループワークの進め方

■ 役割決め

- ・各テーブルで役割を決めて、話し合いを進めます。
進行役：話し合いを進行する役
発表役：話し合った結果を発表する役

■ 意見の記入

- ・意見は自分で付箋に記入して、意見交換しましょう。
- ・意見は、付箋に書かないと記録に残りませんので要注意。
- ・各人、最低でも1枚の意見を付箋に書きましょう。
- ・自身で、「これは違うだろう」などと決めつけることなく、とにかく意見として出してみましょう。

■ グループワークのとりまとめ

- ・記入した付箋を模造紙に貼りましょう。
- ・各グループで内容を整理しましょう。

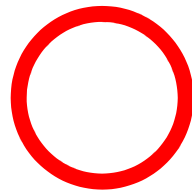
意見の記入のしかた（付箋の使い方）

付箋を使いながら、各テーブルで意見交換します。

〈付箋の使い方〉

- ◆各テーブルにあるペンを使い、簡潔な文章で記入します。
- ◆付箋1枚に1つの意見を記入します。
- ◆付箋を貼ったり剥がしたりしながら、意見を整理します。

記入例)
簡潔な文章で
記入しましょう



正しい情報の入手に
努める。



情報
デマ

後で振り返るとき、
何が言いたかった
のか、わからない。

グループワークのタイムスケジュール

時間	ワークの内容
18:50~19:30 40分間	付箋の記入
19:30~19:50 20分間	付箋の移動
19:50~20:00 10分間	模造紙の仕上げ
20:00~	グループ発表

開始と終了を合図します！

グループワークのとりまとめ

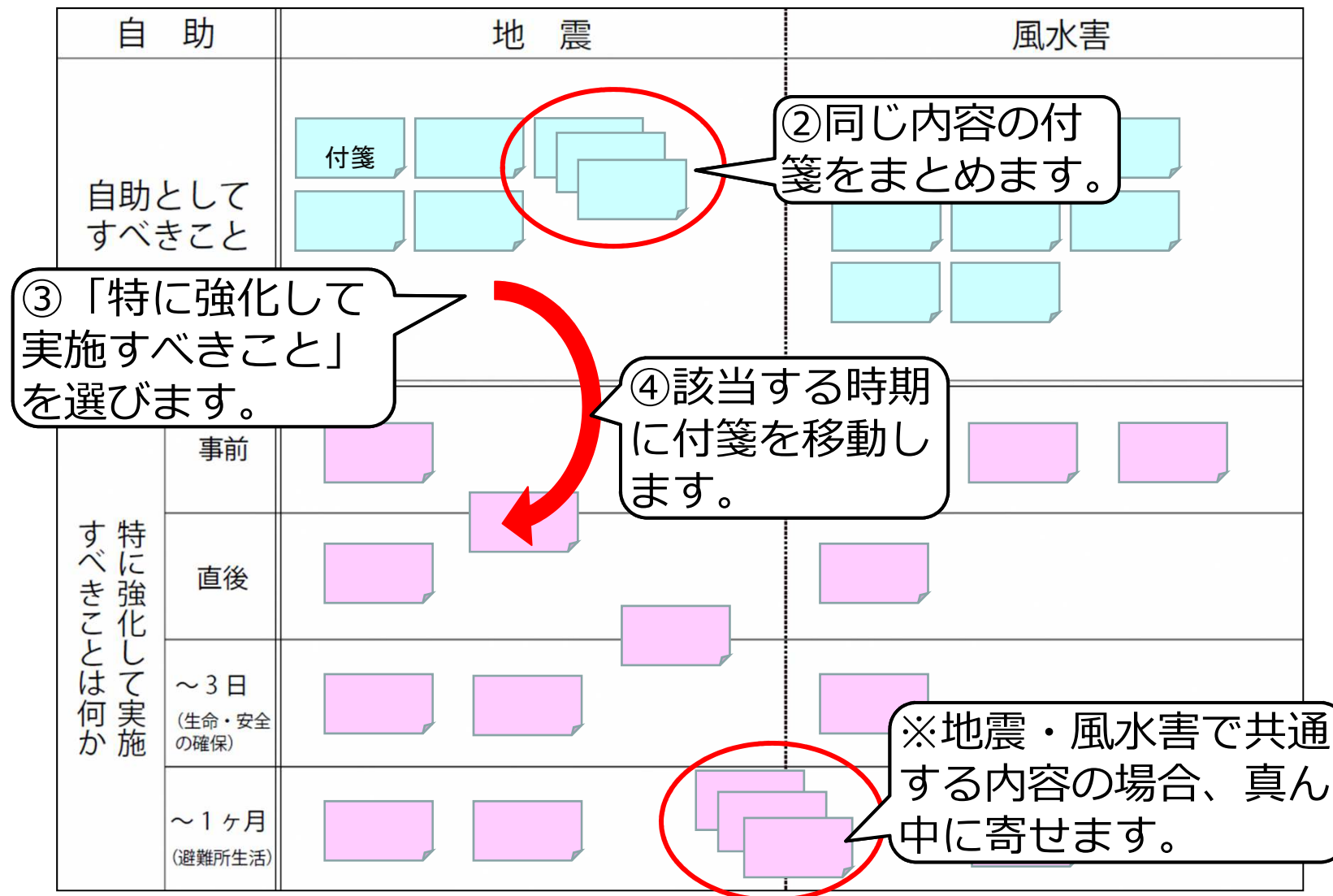
模造紙の使用イメージ

自 助		地 震				風 水 害		
自助として すべきこと		付箋				付箋		
特に強化して実施 すべきことは何か	事前							
	直後							
	～3日 (生命・安全の確保)							
	～1ヶ月 (避難所生活)							

① 「自助としてすべきこと」
に地震と風水害に分けて付箋
を貼ります。

グループワークのとりまとめ

模造紙の使用イメージ



〈目的〉

- ◆各グループでの意見交換の結果を全員で共有しましょう！
- ◆他のグループ発表も聴いて、自分の考えを広げましょう！

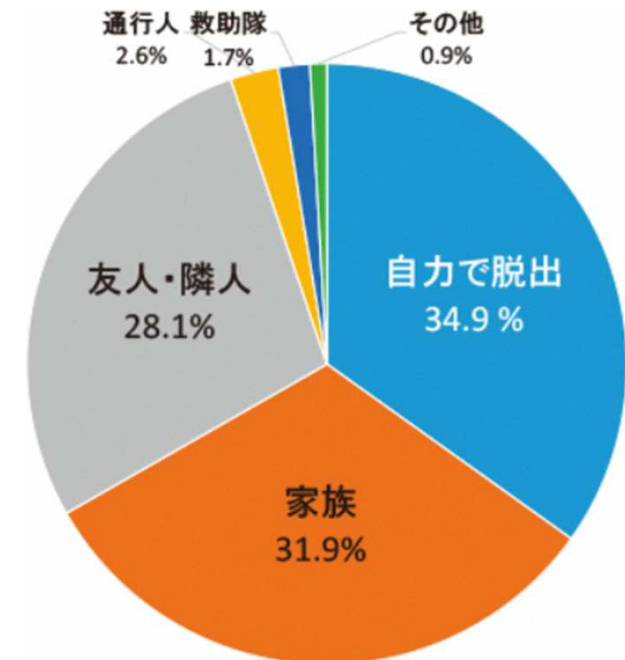
〈発表のしかた〉

- ◆発表する人を決めます。
 - ◆発表は、各グループ5分以内でお願いします。
 - ◆各グループで盛り上がった議論やユニークな意見を中心に紹介しましょう。
- ※付箋に書いてある意見は、整理して後日みなさんに配布します。

【参考】 自助の考え方

自助とは・・・
「自らの命は自らが守ること」
「自分自身と家族の命を守ること」 など

阪神・淡路大震災では、
7割弱 家族も含む「自助」
3割 隣人等の「共助」の救出
数% 救助隊「公助」の救出



日本火災学会(1996)「1995年兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」より内閣府作成

👉 「自助」は、命を守るうえで重要な活動

【参考】地震被害のイメージ

会社員 主婦・主夫 子ども お年寄り 等

災害
発生

直 後

自宅

- ・ その場で倒れこむ
- ・ 食器棚が倒れる
- ・ 落下物が床に散乱する

- ・ 余震による建物の倒壊
- ・ 負傷
- ・ 安否、避難所等の確認が困難になる

公共機関・ライフライン等

- ・ 火災、停電の発生
- ・ 建物が傾く
- ・ 電話が繋がらない
- ・ ガス・上下水道の利用不可

勤務地

- ・ その場で倒れこむ
- ・ パソコンが机から落ちる
- ・ 本棚が転倒する

- ・ 余震による建物の倒壊
- ・ エレベーターが停まる
- ・ 人が一部箇所に集中し混乱



👉被害のイメージから「自助」活動を想像しましょう。

【参考】地震被害のイメージ

会社員 主婦・主夫 子ども お年寄り 等

建物・公共機関・ライフライン等

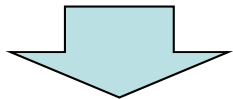
- ・密集地域で火災が拡大
- ・帰宅困難
- ・自宅倒壊による生活の継続困難

避難所等

- ・物資の確保
- ・備蓄品での生活
- ・避難所でのペット等の対応
- ・コロナ等の感染症リスク

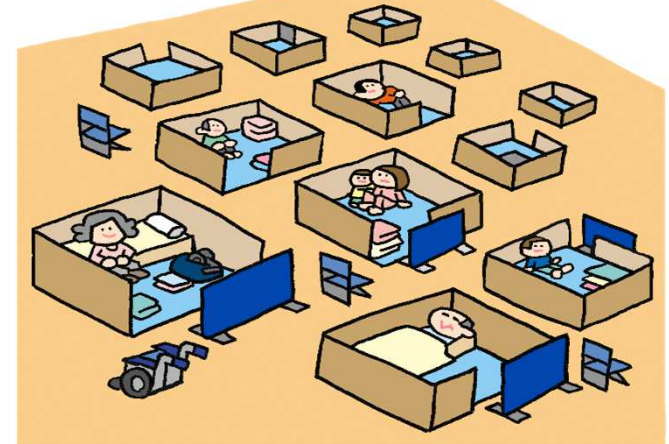
- ・衛生管理
- ・自宅避難の場合の食料不足

～3日
(生命・安全の確保)



～1ヶ月
(避難所生活)

- ・鉄道が一部復旧
- ・道路不通箇所が一部開通
- ・電力の復旧
- ・断水世帯の減少
- ・下水道利用の再開



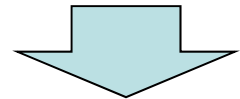
👉被害のイメージから「自助」活動を想像しましょう。

【参考】風水害発生までのイメージ

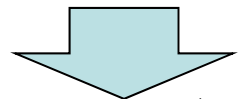
会社員 主婦・主夫 子ども お年寄り 等

自宅・勤務地

大雨
数日前
～1日前



大雨
半日～
数時間前

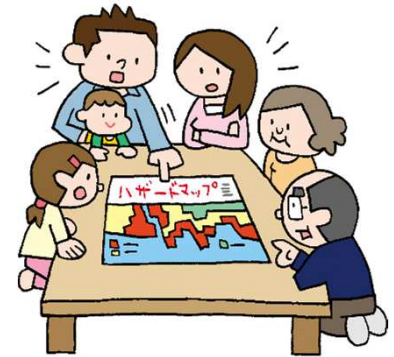


災害
発生

- ・「数日後に台風が来るらしいよ？」

キーワード

天気、持ち物、家族、避難



- ・「風が強くなってきたね！」

キーワード

連絡、家、物、避難、移動、安全性



- ・道路・家が水であふれる
- ・工場が水であふれる

👉被害のイメージから「自助」活動を想像しましょう。

【参考】付箋の記入例（イメージ）

- ◆火の始末をする。
- ◆正しい情報の入手に努める。
- ◆避難に備え非常持ち出し品を準備する。
- ◆家族の安否確認をする。

四街道市地域防災計画改訂
に関するワークショップ
第2回

2022年7月7日（木）

本日のプログラム

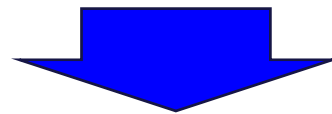
四街道市地域防災計画改訂
に関するワークショップ第2回

- | | |
|----------------|-------------|
| 1. 開会挨拶 | 18:30～18:32 |
| 2. ワークショップの進め方 | 18:32～18:40 |
| 3. グループワーク① | 18:40～19:30 |
| 4. グループワーク② | 19:30～20:00 |
| 5. まとめ | 20:00～20:15 |
| 6. 閉会挨拶 | 20:15～20:30 |

ワークショップの目的

『地域防災計画』の改訂に向けて、市民の皆さんが感じていることや思うことなどを意見交換し、計画づくりに反映します。

市民ワークショップの開催



市民意見をふまえた計画づくり

ワークショップのグラウンドルール

1. 一人ひとりの想いを大切にしましょう。
2. 互いを尊重し合い○○さんと呼び合いましょう。
3. 参加者全員で発言機会を提供し合い、より良い関係性をつくりましょう。
4. 互いの考えの違いや多様性から学び、新しい気づきを生み出しましょう。
5. 議論のなかで感じたことを大切にしましょう。
6. 意見などは記録として残すために、付箋に書いて貼り出しましょう。

本日のワークショップのテーマ

災害時における
「共助強化のポイント」
についてみんなで考えていただきます。



〈ポイント〉

- 災害があった時、共助として、何をする
ことが被害の軽減につながるか考えてみ
ましょう。
- 考える際には、「私」にとっただけでな
く、さまざまな人の立場から考えてみま
しょう。

グループワークの進め方

■ 役割決め

- ・各テーブルで役割を決めて、話し合いを進めます。
進行役：話し合いを進行する役
発表役：話し合った結果を発表する役

■ 意見の記入

- ・意見は自分で付箋に記入して、意見交換しましょう。
- ・意見は、付箋に書かないと記録に残りませんので要注意。
- ・各人、最低でも1枚の意見を付箋に書きましょう。
- ・自身で、「これは違うだろう」などと決めつけることなく、とにかく意見として出してみましょう。

■ グループワークのとりまとめ

- ・記入した付箋を模造紙に貼りましょう。
- ・各グループで内容を整理しましょう。

グループワークのタイムスケジュール

四街道市地域防災計画改訂
に関するワークショップ第2回

時間	ワークの内容
18:40~19:30 50分間	<ul style="list-style-type: none">・意見の記入、貼りつけ・模造紙の仕上げ
19:30~20:00 30分間	<ul style="list-style-type: none">・避難所運営に関するグループワーク・意見取りまとめ
20:00~	<ul style="list-style-type: none">・グループ発表

開始と終了を合図します！

意見の記入のしかた（付箋の使い方）

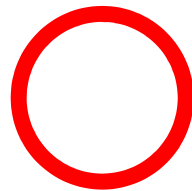
付箋を使いながら、各テーブルで意見交換します。

〈付箋の使い方〉

- ◆各テーブルにあるペンを使い、簡潔な文章で記入します。
- ◆付箋1枚に1つの意見を記入します。
- ◆付箋を貼ったり剥がしたりしながら、意見を整理します。

記入例)
簡潔な文章で
記入しましょう

高齢者と一緒に避難
する



高齢者
避難

後で振り返るとき、
何が言いたかった
のか、わからない。

グループワークのとりまとめ

模造紙の使用イメージ

共 助		地 震	風 水 害
共助としてすべきこと	事前	参考：自助 ・非常持出品を用意する ・家具などを固定する 付箋	付箋
	直後		
	～3日 (生命・安全の確保)		
	～1ヶ月 (避難所生活)		

①「共助としてすべきこと」に付箋を貼ります。

- ・地震と風水害にわける
- ・事前、直後、3日、1ヶ月に分ける

グループワークのとりまとめ

模造紙の使用イメージ

共 助		地 震	風 水 害
共助としてすべきこと	事前	参考：自助 ・非常持出品を用意する ・家具などを固定する 付箋	付箋
	直後		付箋 重要!
	~3日 (生命・安全の確保)		付箋
	~		

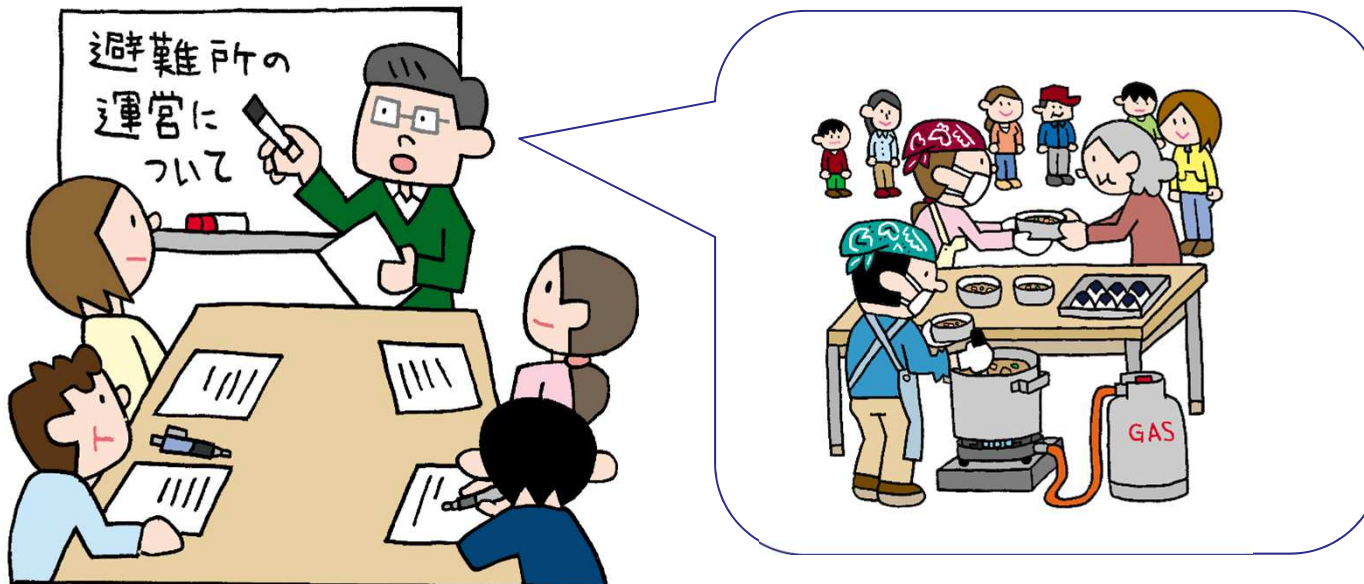
※地震・風水害で共通する内容の場合、真ん中に寄せます。

※必要な場合、マジックペンでコメントなどを記入してください。

避難所運営に関するグループワーク

避難所の“場面”に対する対応

- ◆各テーブルで避難所に関する“場面（避難者の悩み）”を読み上げます。
- ◆避難所運営側の立場で、“場面”の対応策と理由を考えます



避難所運営に関するグループワーク

解決するために意見を出し合い、話し合みましょう。

A班 シチュエーション

◆体調が悪いが、原因がわからず不安。

B班 シチュエーション

◆皆が使っているトイレが汚れていて、タバコの吸い殻が散乱していた。

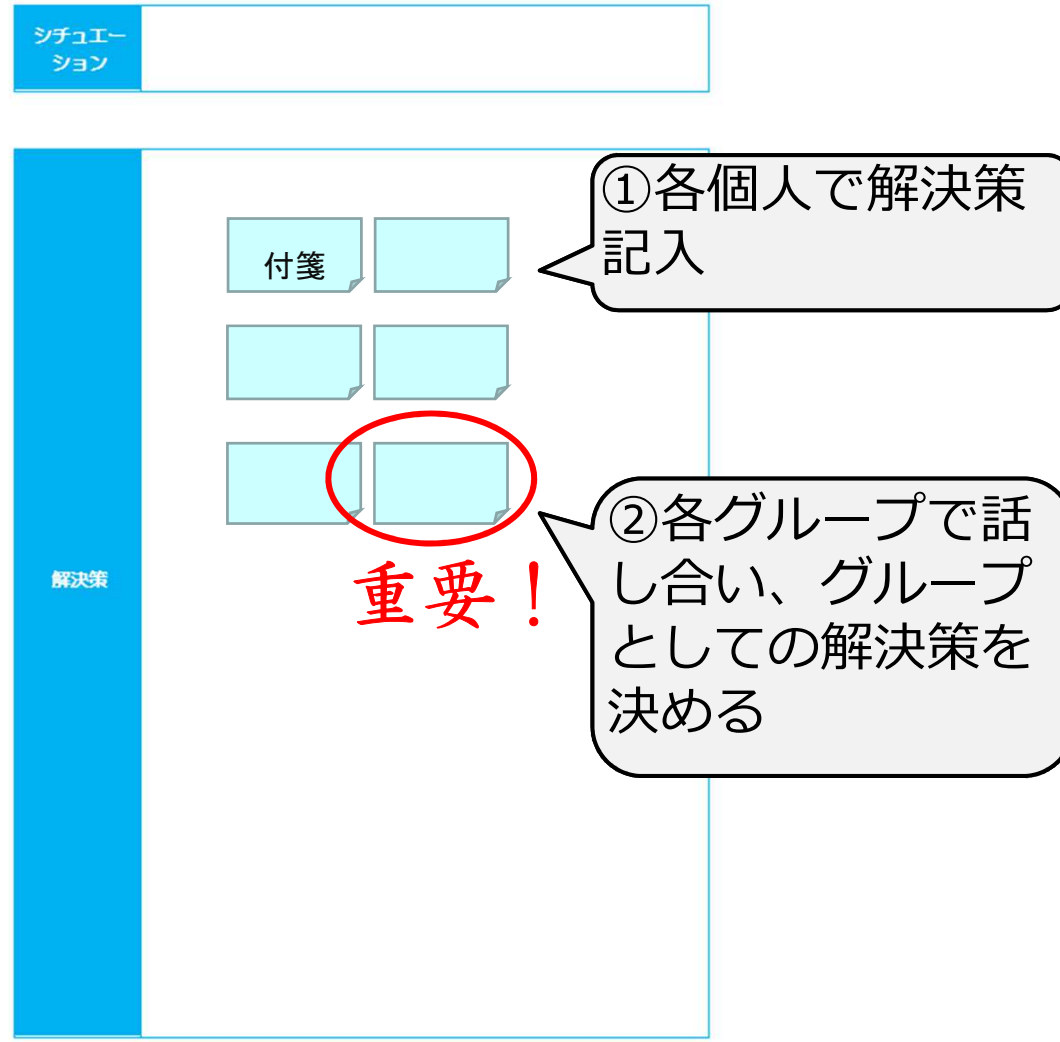
C班 シチュエーション

◆隣の家族が騒いで迷惑。私の場所を変えてもらえないか。

避難所運営に関するグループワーク

グループワークのとりまとめ

避難所運営に関するグループワーク



〈目的〉

- ◆各グループでの意見交換の結果を全員で共有しましょう！
- ◆他のグループ発表も聴いて、自分の考えを広げましょう！

〈発表のしかた〉

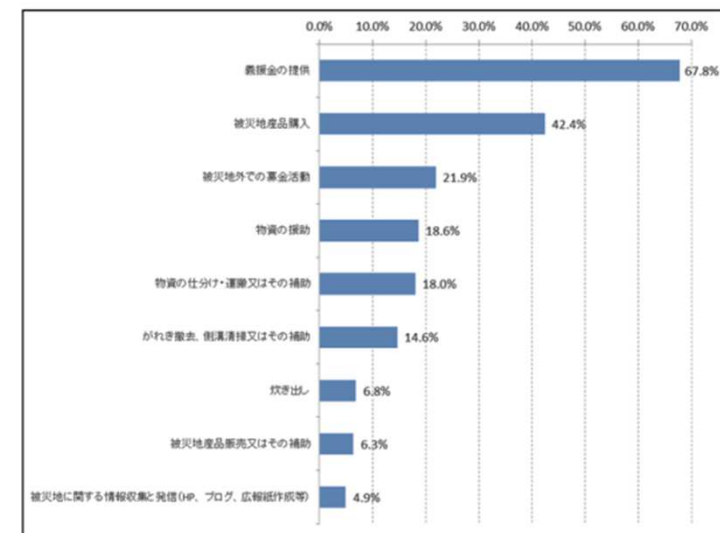
- ◆発表する人を決めます。
 - ◆発表は、各グループ5分以内でお願いします。
 - ◆各グループで盛り上がった議論やユニークな意見を中心に紹介しましょう。
- ※付箋に書いてある意見は、整理して後日みなさんに配布します。

【参考】共助の考え方

共助とは・・・

「自分たちのまちは自分たちで守ること」
「地域やコミュニティといった周囲の人たちが協力して助け合うこと」 など

東日本大震災では、
全国的な規模で共助による
支援活動を実施



内閣府(2013)「東日本大震災における共助による支援活動に関する調査報告書」より抜粋

👉 まちを守る「共助」活動は、近年意識が高い

【参考】地震被害のイメージ

会社員 主婦・主夫 子ども お年寄り 等

災害
発生

直 後

自宅

- ・ その場で倒れこむ
- ・ 食器棚が倒れる
- ・ 落下物が床に散乱する

- ・ 余震による建物の倒壊
- ・ 負傷
- ・ 安否、避難所等の確認が困難になる

公共機関・ライフライン等

- ・ 火災、停電の発生
- ・ 建物が傾く
- ・ 電話が繋がらない
- ・ ガス・上下水道の利用不可

勤務地

- ・ その場で倒れこむ
- ・ パソコンが机から落ちる
- ・ 本棚が転倒する

- ・ 余震による建物の倒壊
- ・ エレベーターが停まる
- ・ 人が一部箇所に集中し混乱



👉被害のイメージから「共助」活動を想像しましょう。

【参考】地震被害のイメージ

会社員 主婦・主夫 子ども お年寄り 等

建物・公共機関・ライフライン等

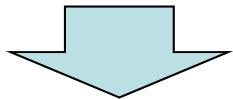
- ・密集地域で火災が拡大
- ・帰宅困難
- ・自宅倒壊による生活の継続困難

避難所等

- ・物資の確保
- ・備蓄品での生活
- ・避難所でのペット等の対応
- ・コロナ等の感染症リスク

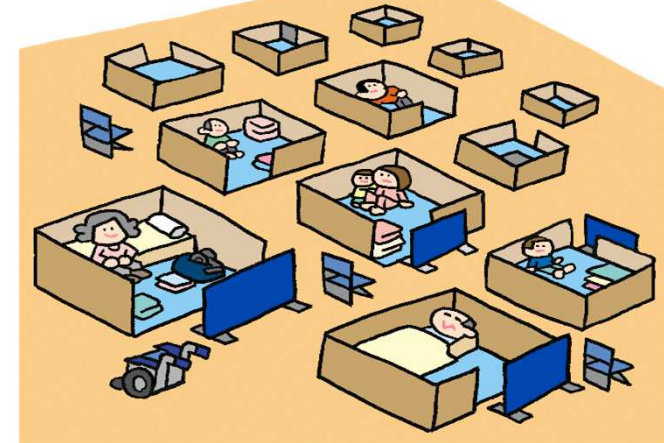
- ・衛生管理
- ・自宅避難の場合の食料不足

～3日
(生命・安全の確保)



～1ヶ月
(避難所生活)

- ・鉄道が一部復旧
- ・道路不通箇所が一部開通
- ・電力の復旧
- ・断水世帯の減少
- ・下水道利用の再開



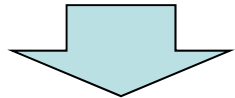
👉被害のイメージから「共助」活動を想像しましょう。

【参考】風水害発生までのイメージ

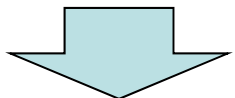
会社員 主婦・主夫 子ども お年寄り 等

自宅・勤務地

大雨
数日前
～1日前



大雨
半日～
数時間前



災害
発生

- ・「数日後に台風が来るらしいよ？」

キーワード

天気、持ち物、家族、避難



- ・「風が強くなってきたね！」

キーワード

連絡、家、物、避難、移動、安全性



- ・道路・家が水であふれる
- ・工場が水であふれる

👉被害のイメージから「共助」活動を想像しましょう。

【参考】付箋の記入例（イメージ）

- ◆隣近所で声掛けをし、けが人がいないかを確認める。
- ◆近所で協力し合い、初期消火にバケツリレーで対応する。

四街道市地域防災計画改訂
に関するワークショップ
第3回

2022年8月18日（木）

本日のプログラム

四街道市地域防災計画改訂
に関するワークショップ第3回

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. 開会挨拶 | 18:30～18:35 |
| 2. 前回までのまとめ | 18:35～18:50 |
| 3. 「公助」について | 18:50～19:00 |
| 4. 意見書案について | 19:00～20:00 |
| 5. 意見書手交 | 20:00～20:05 |
| 6. 閉会挨拶 | 20:05～20:10 |

前回までのまとめ（第1回）

四街道市地域防災計画改訂
に関するワークショップ第3回

- 令和4年6月2日18:30～20:30
- “自助”をテーマとしてワークショップが実施されました。



ワークショップの風景



危機管理監からの
ご挨拶

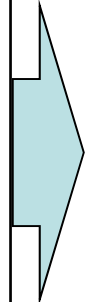


テーマについて
の相談風景

前回までのまとめ（第1回）

● 意見を取りまとめました。

A	「知っておくこと」 ・ 災害直後から1か月後以降までにやること、自分自身 「心身の健康」 ・ ラジオ体操、コミュニケーション等
B	「事前の準備（共通）」 ・ 家具転倒防止、スマホ充電器、情報手段、避難所持参物、トイレ等 「事前の準備（風水害）」 ・ ハザードマップ等を確認し、自宅周辺の危険箇所の把握
C	「事前の準備」 ・ トイレ、水、避難路、連絡方法等 「直後～3日後」 ・ ガス・電気等戸締り、自宅避難の検討

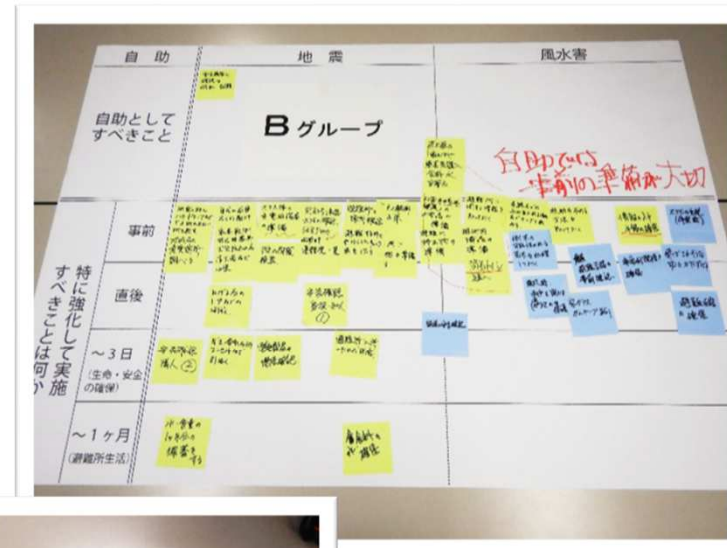


- ① 「もし大きな災害が起きたら」といったことをイメージし、事前の準備を心がけること
- ② 災害発生からの復興までの長期的な期間で必要な自助を考えておくこと
- ③ 自分や家族の身の安全を考えるとともに、自分たちの地域を知ること

前回までのまとめ (第1回)

四街道市地域防災計画改訂
に関するワークショップ第3回

● 【参考】



前回までのまとめ（第2回）

四街道市地域防災計画改訂
に関するワークショップ第3回

- 令和4年7月7日18:30～20:30
- “共助”をテーマとしてワークショップが実施されました。



各グループの
議論風景



意見発表の風景

前回までのまとめ (第2回)

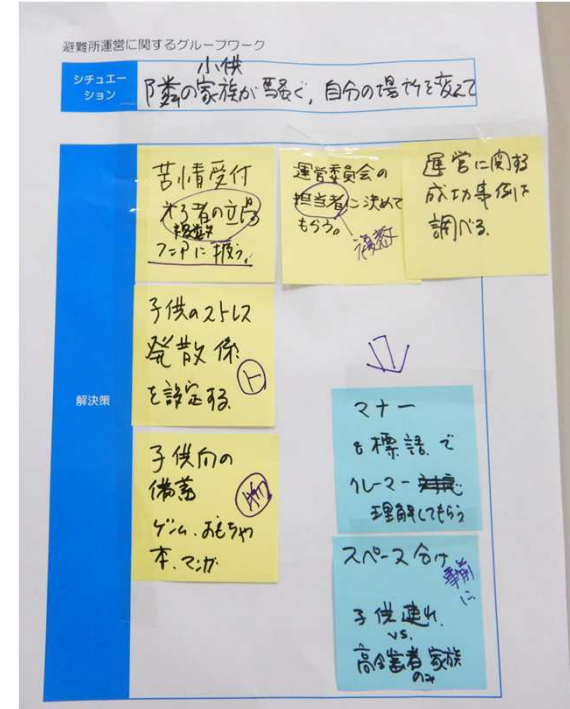
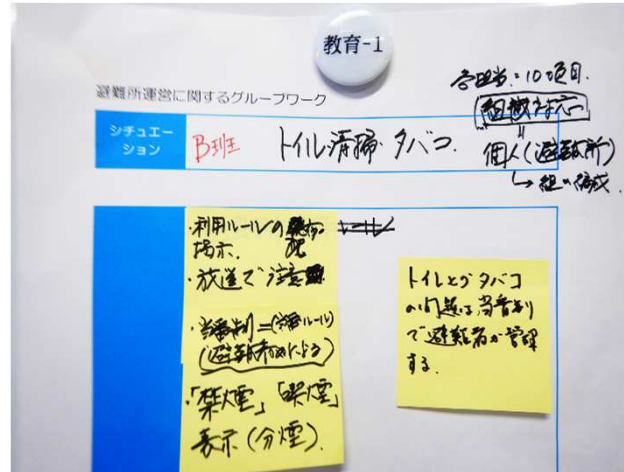
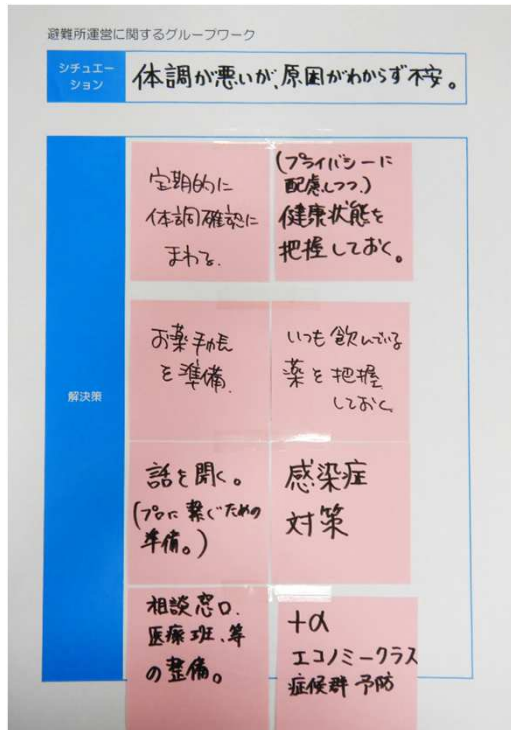
● 意見を取りまとめました。

	A	B	C	
事前	<p>近所 つながり</p> <p>組織 計画・マ ニュアル</p>	<p>地域 要配慮者、 安否確認 方法等</p> <p>個人 ルール 化・危険 箇所確認</p>	<p>防災意識 資機材準 備、危険箇 所確認等</p> <p>組織 自主防災組 織、小さな単 位見守り</p>	
直後	<p>安否 確認</p>	<p>専門化に よる活動 搜索・手 当・介護 等</p>	<p>安否確認、 地域の災 害対応組 織設置</p> <p>避難同道、 応急措置、 救出救助</p>	<p>安否確認、共助を求める 人の情報集約、救急所の 補完</p>
~3日	<p>動ける人 (共助可) 炊出、力 仕事等</p>	<p>避難所運 営、在宅 避難者支 援</p>	<p>不安を聞 き、回答 へのつな がり</p>	<p>避難所運営の協力、役割 分担、ボランティア活動</p>
~1ヶ月	<p>主体性 運営側意識・周囲へ の気配り等</p>	<p>避難所運 営、避難 所撤収時 期の検討</p>	<p>公助を知 る(罹災証 明、仮設 住宅等)</p>	<p>助け合い 自治会の垣根を超えた共 助、こころのケア、罹災証 明等の情報共有</p>

前回までのまとめ (第2回)

四街道市地域防災計画改訂
に関するワークショップ第3回

● 【参考】

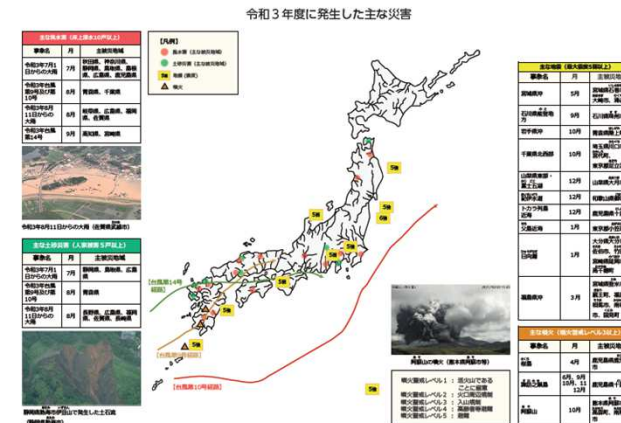


A	B	C
プロにつなぐ	避難所運営の意識	環境やルール作り

「公助」について

公助とは・・・
 「市役所、消防、警察、自衛隊などによる公
 的な支援のこと」
 「県、市などの行政や防災関係機関による救
 助・援助等」など

日本各地で近年、大規模な自然災害が相次いでいる中、公助を行う各組織で平時から様々な活動が取られている。



出典：水害レポート2021（国土交通省）より内閣府作成

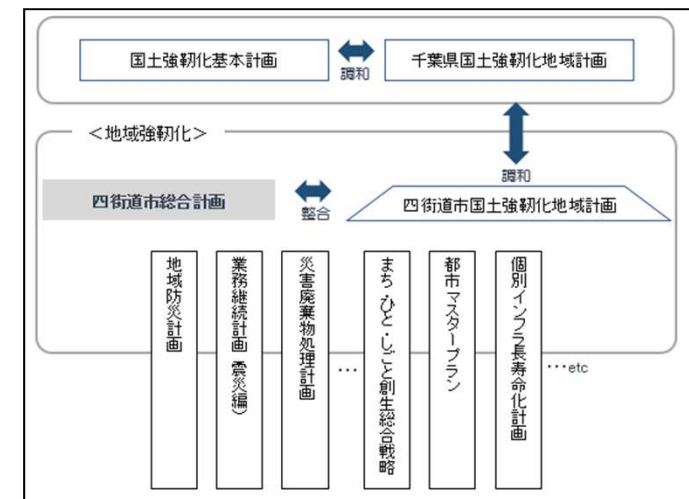
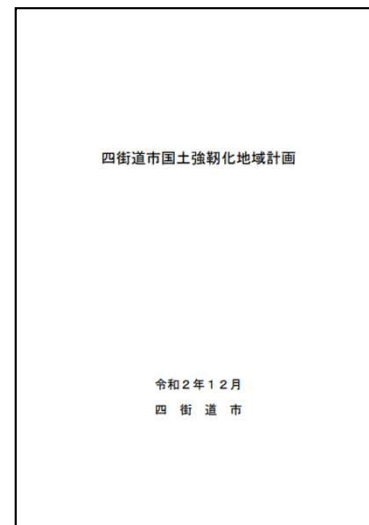
内閣府「令和4年版防災白書」より抜粋

👉 大規模災害に対し、様々な「公助」活動が行われる。

「公助」について（国土強靱化）

● 四街道市国土強靱化地域計画

- ・ 大規模自然災害の発生に備え、最悪な事態に陥ることのない「**強さ**」「**しなやかさ**」を持った社会を作る必要がある。
- ・ **国土強靱化の指針**となる計画
- ・ 地域で想定される「あらゆる自然災害」を見据えた**平時の取組**を位置づけている計画



👉 大規模災害に対し、様々な「公助」活動が行われる。

【参考】強靱化_目標とリスクシナリオ

事前に備えるべき目標	起きてはならない最悪の事態 (リスクシナリオ) の例
1 人命の保護	情報伝達の不備等による避難行動の遅れ等で多数の死傷者の発生
2 救助・救急、医療活動等	避難所の開設・運営の不備等による避難環境の悪化
3 行政機能の確保	市の職員・施設の被災による機能の大幅な低下
4 情報通信機能の確保	防災行政無線等の機能停止により災害情報が伝達できない事態
5 経済活動を機能不全に陥らせない	基幹的交通ネットワークの機能停止
6 生活・経済活動に必要最低限のライフラインを確保等	地域交通ネットワークが分断する事態
7 制御不能な二次災害を発生させない	沿線・沿道の建物倒壊による直接的な被害及び交通麻痺
8 地域社会・経済が迅速に再建・回復できる条件の整備	地域コミュニティの崩壊、治安の悪化等により復旧・復興が大幅に遅れる事態

「公助」について（国土強靱化）

● 四街道市国土強靱化地域計画

- ・ 30以上のリスクシナリオを回避するための施策を検討

2-4 避難所の開設運営の不備等による避難環境の悪化

（公的避難場所の確保）

- 福祉施設、教育施設等の耐震化、不燃化及び非常用発電機能の推進
- 避難所指定の施設の備蓄倉庫の整備や定常的な備蓄品の管理等、備蓄体制の確保

（避難所での自主管理体制の構築）

- 自主防災組織や区・自治会等から構成される避難所運営委員会の設立推進
- 平時からの運営訓練等の実施の支援

【重要業績指標】

指標（K P I）	現況値	目標値（R5年度）
市所有特定建築物の耐震化率	約97%	約98%
備蓄食料充足率	100%	100%
防災備蓄倉庫整備数	4箇所	5箇所
自主防災組織の活動カバー率	74.3%	85.0%

👉 施策の方針や具体的な事業を進めている。

「公助」について（避難所）

- 避難所運営の割り振り
 - ・ 避難者を各避難所に割り振り
- 避難所運営マニュアルの作成
 - ・ **市から避難所を担当する職員を派遣**
→避難所運営委員会を設立
 - ・ **避難所の後方支援**
→市災害対策本部との連絡
→保健師や福祉部門等の派遣 等
- 避難所での感染症対応に関する啓発
 - ・ 市HPで**感染症対応に関する啓発**

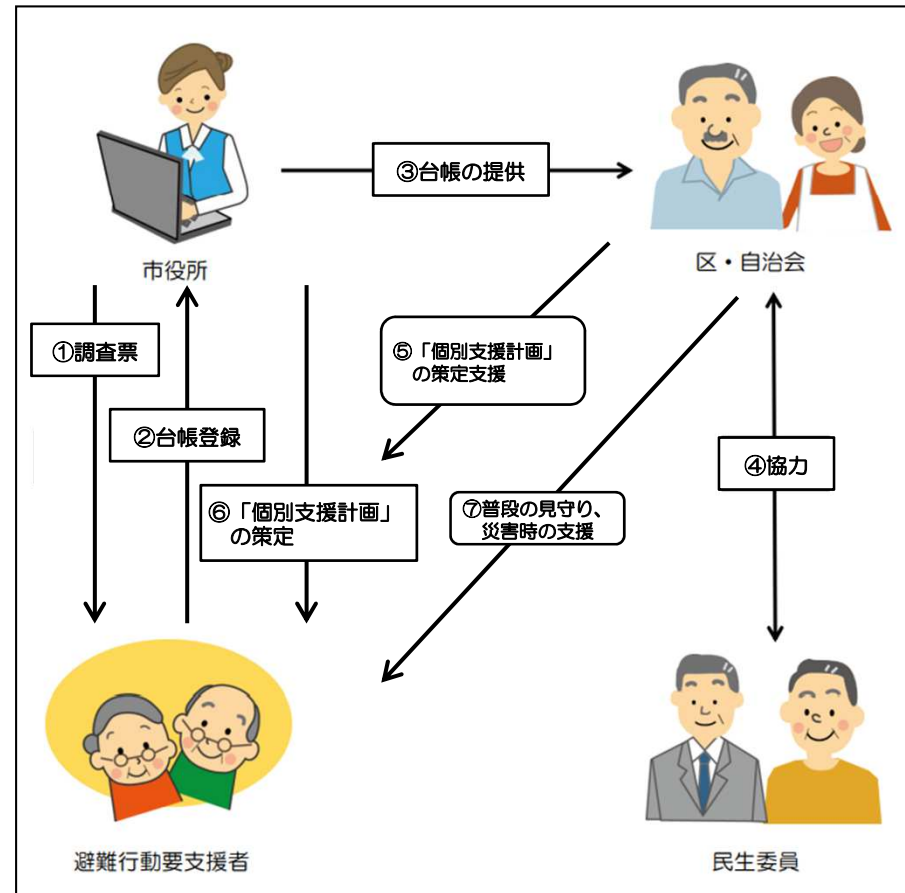


👉 避難所に関する対策を各種行っている。

「公助」について（要配慮者支援）

● 避難行動要支援者支援体制整備事業

- ・自ら避難することが困難で特に支援を要する人を把握し、**名簿を作成**することが義務付け
- ・本人が同意した個人情報を「避難行動要支援者台帳」として整備し、区・自治会と協力して災害時に支援する事業を進めている
- ・**平時の見守りや災害時の支援**ができるよう進めている



☞ **公助（支援者の状況調査、台帳整備）と共助（見守り、災害時支援）の連携による要配慮者支援**

「公助」について（その他平時の取組）

四街道市地域防災計画改訂
に関するワークショップ第3回

- 自主防災組織
 - ・ 四街道市自主防災組織補助金（資機材、訓練の補助）
 - ・ 自主防災組織を対象とした研修（県消防学校）
- 防災行政無線
 - ・ 放送内容の音声を防災行政無線情報サービスやメール配信サービス「よめる」で確認できる。
- 防災に関する協定締結情報
 - ・ 通信設備、電動車両、行政書士、銀行、停電復旧、郵便、遺体搬送、防疫、ドローン、獣医等

👉 公助について各種取組を進めている。

「公助」について（災害時）

● 災害時の公助のイメージ



直 後

被災

- ・ その場で倒れこむ
 - ・ 食器棚が倒れる
 - ・ 落下物が床に散乱する

 - ・ 余震による建物の倒壊
 - ・ 負傷
 - ・ 安否、避難所等の確認が困難になる
- 公共機関・ライフライン等
- ・ 火災、停電の発生
 - ・ 建物が傾く
 - ・ 電話が繋がらない
 - ・ ガス・上下水道の利用不可

公助

- ・ 情報収集【市】

- ・ 救出救助【消防等】
- ・ 住宅、避難所等の被害情報の収集【市】

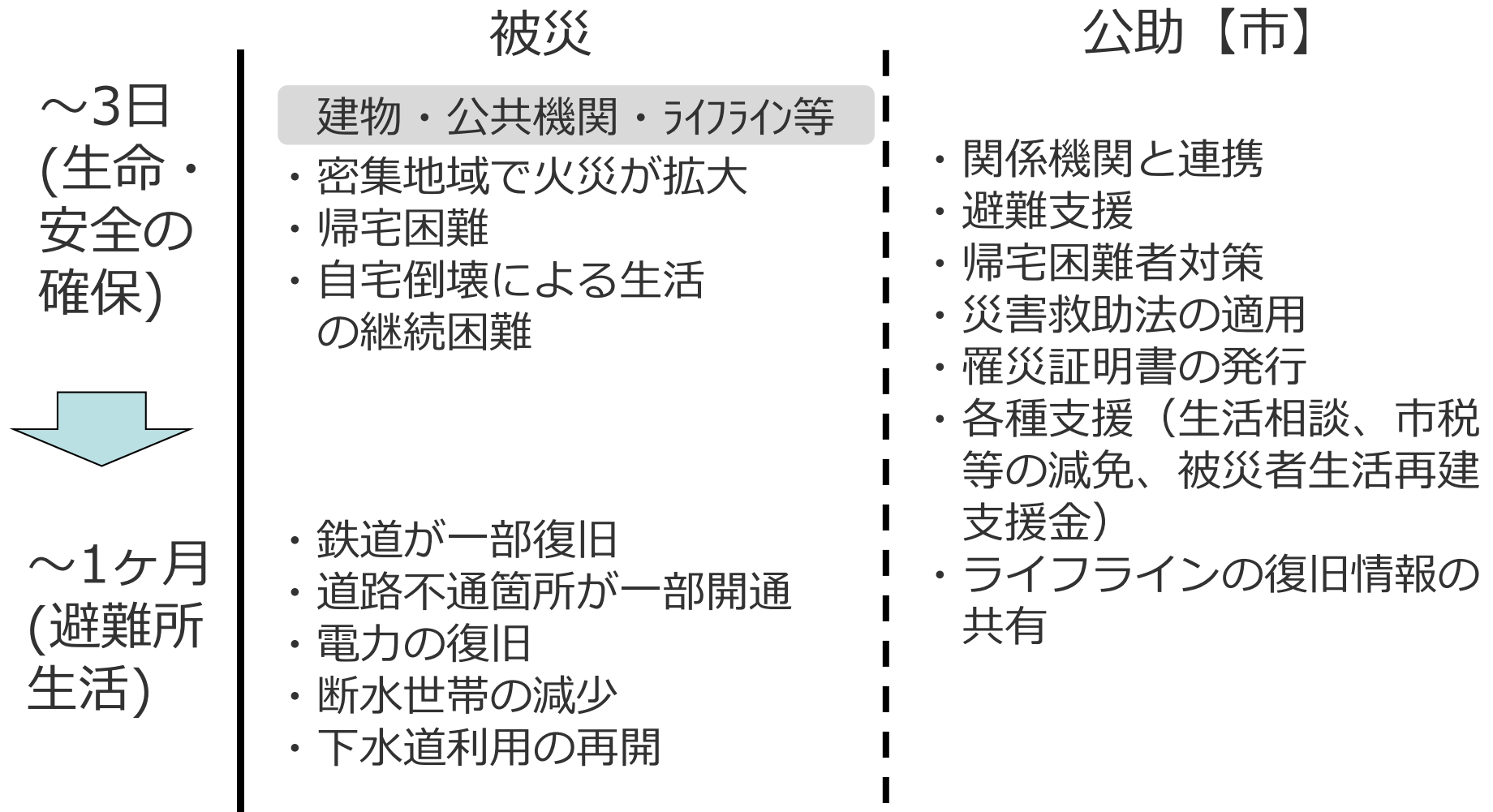
- ・ 避難所配備職員の派遣【市】

- ・ 公共機関・ライフライン等の被害情報の収集【関係機関等】

👉 大規模災害に対し、様々な「公助」活動が行われる。

「公助」について（災害時）

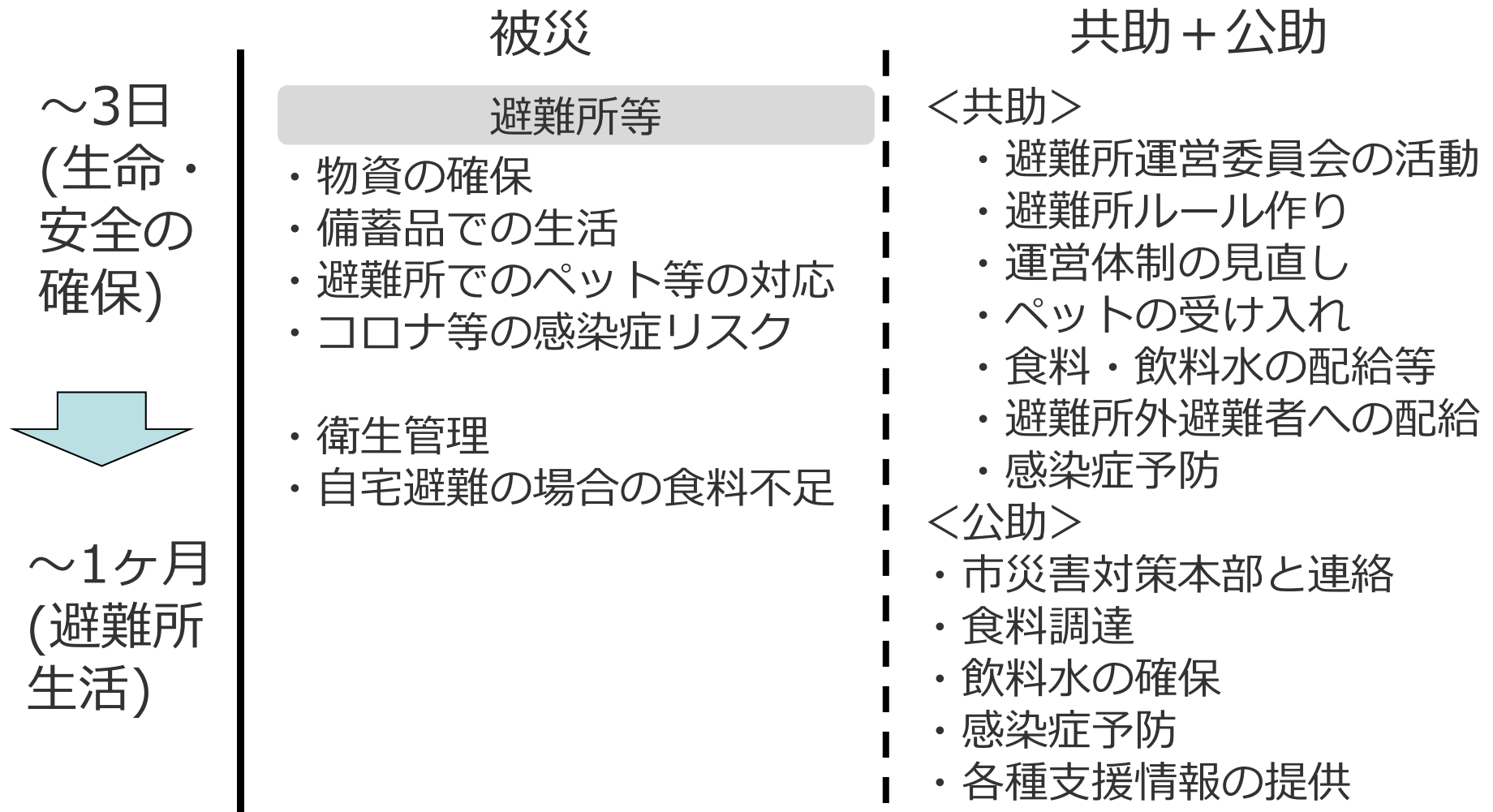
● 災害時の公助のイメージ



👉 大規模災害に対し、様々な「公助」活動が行われる。

「公助」について（災害時）

● 災害時の公助のイメージ



👉 大規模災害に対し、様々な「公助」活動が行われる。

● 意見書の作成

- ・ 地域防災計画改訂に際し、皆様に意見を頂戴してきました（四街道市市民参加条例第6条第1項第1号）。
- ・ 意見の方向性を見出すために設置した「市民会議」をこれまで2回開催しました（四街道市市民参加条例第12条）。
- ・ 意見を取りまとめた**「意見書」を四街道市に本日提出**します。

● 意見書（案）へのご意見等

- ・ これまでの意見を「意見書（案）」として整理しました。
- ・ 本日、**「意見書（案）」に対する質疑、意見**をいただき、最終的に**「意見書」**として取りまとめます。
- ・ 後ほど、意見書を市に提出する代表者を選出します。

👉 **市民会議の意見を「意見書」として取りまとめる。**

● 意見書へのご意見を伺います

- ・ 市民会議で頂いたご意見を「意見書（案）」としてとりまとめました。
- ・ 「意見書（案）」に対して、ご意見を頂きます。ご意見に対して、この場で、追加削除等を行います。

「意見書（案）」の考え方

- ・ 次の3つの**テーマ**を設定
 - ①個人や地域で**事前にできることを考え実践**すること
 - ②災害直後から復興までの**長期的な期間の自助・共助**を
 こころがけること
 - ③**助け合いの精神**に基づき行動すること
- ・ 各テーマに基づき、**各種意見**を整理

<個人や地域で事前にできることを考え実践すること>

1	自助として、ハザードマップ等を確認し、地域の災害リスクや避難路等を把握すること。
2	自助として、災害等により危険が近づいた場合に、事態を楽観視せず行動できるように、平時から災害をイメージできるようにすること。
3	自助として、情報に関わる事前の準備（スマホの充電機器の準備、家族との連絡方法の検討等）を心がけること。
4	自助として、避難所への持参物として携帯用トイレ等の生活用品の持参を心がけること。
5	共助として、地域の災害リスクや避難路等を把握するとともに、地域住民で共有すること。
6	共助として、防災に必要な資機材の準備に心がけること。

＜災害直後から復興までの長期的な期間の 自助・共助をこころがけること＞

7	自助として、風水害時は、気象情報のチェックを心がけること。
8	自助として、避難所において、健康づくりのためラジオ体操やウォーキングなどの定期的な運動を心がけること。
9	自助として、生活再建に係る情報の収集を心がけること。
10	共助として、声掛け等、高齢者の避難支援を心がけること。
11	共助として、避難所において、感染症対策などの衛生管理の継続的な維持を心がけること。
12	共助として、避難所において、運営の協力を心がけること。

<助け合いの精神に基づき行動すること>

13	自助として、平時においても災害時においても隣近所とのつながりを心がけること。
14	共助として、平時においても災害時においても隣近所とのつながりを心がけること。
15	共助として、災害時、公助による各種活動を補佐すること。
16	共助として、子供や高齢者等の見守りを心がけること。
17	共助として、地域の要配慮者の安否確認方法等を考えておくこと。